

## **[成果情報名] 西湖におけるクニマスの資源量と生態**

**[要約]** 西湖に生息するクニマスはおよそ 5,000~7,500 尾と推定された。一般的なサケ科魚類と異なりクニマスは晩秋~早春にかけて深層湖底で産卵していた。未成熟期の分布や食性は同湖に生息するヒメマスと重複するものと考えられた。

**[担当]** 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・青柳敏裕

**[分類]** 研究

---

### **[課題の要請元]**

富士河口湖町、西湖漁協

### **[背景・ねらい]**

平成 22 年に西湖で再発見されたクニマスについて、その資源量は不明であり、産卵や食性などの生態についての基礎的情報も全く分かっていない。そこでクニマスの保全を図るため、クニマスの資源量及び生態について検討を行う。

### **[成果の内容・特徴]**

- 1 秋のヒメマス遊漁期の混獲状況から、西湖のクニマス資源（1 才以上）は 5,000~7,500 尾程度と推定された（表 1）。
- 2 産卵期は毎年 11 月~翌 3 月頃（盛期 1 月頃）で（図 1）、産卵場は産卵保護区内の水深 30m 前後の深層湖底であった。
- 3 産卵環境は周年 5℃前後の低水温であるが、産卵する砂礫地内温度は測定地点により 6~9℃の範囲で様々な変動を示し、湖底湧水の影響によるものと推測された。
- 4 未成熟期のクニマスの食性はカブトミジンコなど大型の動物プランクトンが主体で、底生昆虫や大型個体ではワカサギも採食していた（図 2）。
- 5 成熟状況調査採集標本の最大体サイズは 45cm（900g）で、寿命は 5-6 才と推定された。秋の資源調査で採集された 1-5 才（15-32cm）のクニマスから成長量を推定した（図 3）。

### **[成果の活用上の留意点]**

- 1 産卵場湖底湧水の保全については、資源動向や産卵場観察など長期的にモニタリングし、データ蓄積を図る必要がある。
- 2 尾数制限や禁漁期、禁漁区など、遊漁規則における制限の徹底を地元漁協に促しクニマス保全を図るとともに、生態調査の結果がクニマス保全に活かせるよう地元との意見交換を継続する必要がある。

### **[期待される効果]**

クニマスの保全、ヒメマス漁業との共存

[具体的データ]

表 1 西湖のクニマス資源量 (各年の 10 月 1 日における 1 才以上のクニマスの推定尾数)

2012年	2013年	備 考
7,500	6,300	寿命4才の場合
6,000	5,400	寿命5才の場合

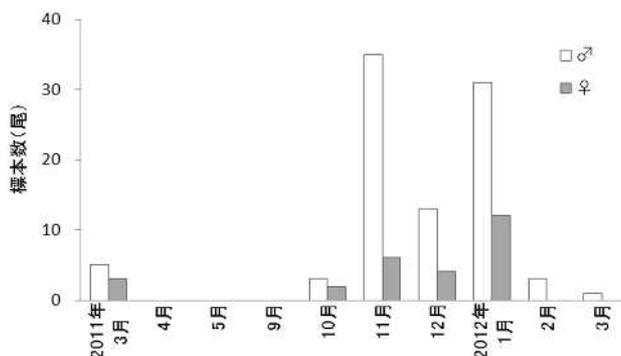


図 1 産卵場への親魚の来遊状況 (2011-2012 年)

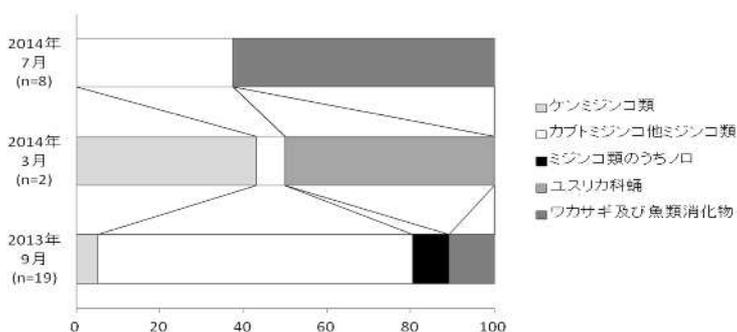


図 2 胃内容物重量組成の季節変化 (2014 年)

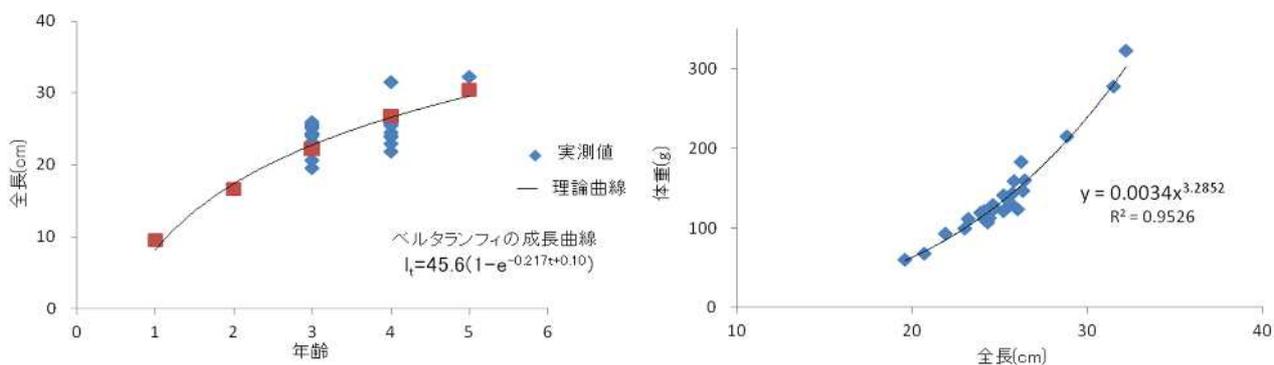


図 3 成長 (左: 成長曲線、右: 体長-体重相関)

[その他]

研究課題名: クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究 (総合理工学研究機構)

予算区分: 県単 (総理研)

研究期間: 平成 23~26 年度

研究担当者: 大浜秀規、青柳敏裕、谷沢弘将、小澤諒